

令和7年度数学科の授業づくりのポイント

数学訪問に係る学校への提示資料より

【わかる、できる授業づくりに関すること】

- 本時のねらいに即した適用題を実施する
- 適用題の正答率80%以上を目指し、適用題が解けた生徒には、次の課題を準備する
- 適用題が解けるよう、個別に支援する

【自分の考えを表現する授業づくりに関すること】

- 教師の説明する場面を精選し、生徒の活動する時間を十分に確保する
- 生徒の学習状況を見取り、個に応じた指導や支援をする
- 全ての生徒が説明（表現）する機会を確保する

今年度の数学訪問では、令和7年度数学科の授業づくりのポイントをもとに授業を参観し、意見交換をさせていただきました。そこから見た状況をもちに、生徒が「わかった」「できた」と実感できる授業へレベルアップするためのポイントを2点お伝えします。

参考にしたい授業の様子

- ◎ 課題設定を工夫し、生徒から出る疑問や予想から、学ぶ意欲へとつなげている授業。
- ◎ 生徒一人一人の状況を見取り、一人一人に必要な支援を考えて生徒に声をかけている授業。
- ◎ 生徒の活動（個人思考や教え合い）に時間をとり、生徒同士の関わりから「わかった」「できた」につなげようとしている授業。

改善が必要な授業の様子

- △ 教師と一部の生徒のやりとりだけで進められる授業。
- △ 適用題がないため、授業で学んだことをアウトプットする場がないまま終わってしまう授業。
- △ 生徒の見取りが不十分なため、個別の支援がないまま終わってしまう授業。

今後の授業づくりで大切にしてもらいたいこと

- ① すべての生徒が本時のねらいを達成するため**適用題**で自分に力がついたか確かめられるようにしましょう。
- ② 適用題の正答率80%以上を目指し、個々の生徒のつまづきを想定して支援を行ったり、できた生徒への次の課題を用意したりするなど、生徒の実態に合わせた手立てを想定しておきましょう。

適用題を活用した好事例【南部町立南部中学校】

2年生 図形の調べ方

<本時のねらい> 多角形の内角の和、外角の和の性質を使って、角の大きさの求め方を考え、説明することができる。

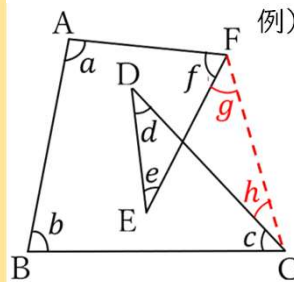
<本時の適用題>

下の図で、 $\angle a, b, c, d, e, f$ の角の大きさの和を求めなさい。

求めるための式や、わかった角の大きさ、使った文字、補助線などを図に必ずかこう。

それをもとに、求め方を自分の言葉で説明できるように考えてみよう。

<求め方>



例) 辺FCとなるように補助線を引き、辺DCと辺FEとの交点をPとする。
また、 $\angle f$ の下の方角を $\angle g$ 、 $\angle c$ の上の方角を $\angle h$ とする。
 $\triangle PDE$ と $\triangle PFC$ について、三角形の内角の和は180であり、対頂角は等しいことから 残りの角の和も等しいので
 $\angle d + \angle e = \angle g + \angle h$ となる。
四角形ABCFについて、内角の和は360°より
 $\angle a + \angle b + \angle c + \angle f + \angle d + \angle e = \angle a + \angle b + \angle c + \angle f + \angle g + \angle h = 360^\circ$

ナイスポイント①

本時のねらいに沿った適切な適用題を設定する。

求めるための式、角や補助線などを図に書き込むよう指示があることで、生徒が、本時のねらいである、多角形の内角の和、外角の和の性質を使って考えようとしているかを見取ることができていました。

ナイスポイント②

生徒の学びを見取り、個別の支援につなげる。

教師は生徒一人一人の理解度を見取り、個々に合わせた支援を行っていました。また、全体での協働的な学びの場でも、生徒の「わからない」を引き出し、全員で解決しようとしていました。さらに、適用題が早く終わった生徒には応用問題が用意され、難易度の高い問題にもチャレンジすることができるよう工夫されていました。

活用問題集B-PLAN(1,2年)の問題を適用題として出題し、生徒の理解度を見取っている学校もありました。授業のアイデアも掲載されていますので、ぜひご活用ください。



